

11月3日文化の日は“みなと”の哲学トークイベント第2弾！

映画監督 × 哲学者

『カメラを止めるな！』はなぜ生み出されたのか、「哲学」の視点から解き明かす。

映画監督と哲学者が、これからの日本社会について語る――



©ENBU ゼミナール

映画監督 上田慎一郎 SHINICHIRO UEDA

1984年、滋賀県出身。中学生の頃から自主映画を撮りはじめ、高校卒業後も独学で映画を学ぶ。2009年、映画製作団体 PANPOKOPINA（パンポコピーナ）を結成。『お米とおっぱい』『恋する小説家』『டைக 8』等8本の映画を監督し、国内外の映画祭で20のグランプリを含む46冠を獲得する。2017年、初の劇場用長編『カメラを止めるな！』が2館から350館へ拡大する異例の大ヒットを記録。三人共同監督作の『イソップの思うツボ』が2019年8月に公開、そして劇場用長編第二弾となる『スペシャルアクターズ』が同年10月に公開。現在、監督・スタッフ・キャストが対面せず“完全リモート”で制作した短編映画『カメラを止めるな！リモート大作戦』が5月1日よりYouTubeにて公開中。



哲学者 樋笠勝士 KATSUSHI HIKASA

神田外語大学、上智大学を経て、現在は岡山県立大学教授。非常勤講師として慶應義塾大学等で教鞭を執る。専門は西洋古代中世哲学及び美学芸術学、その他九鬼周造哲学や記号論、バウムガルテン哲学も研究。学会では中世哲学会常任理事、新プラトン主義協会理事をつとめ、美学会、日本哲学会等にも所属。美学哲学コロキウム（ツイッター）を主宰し、プラトン、プロティノス、ドゥルーズなどの各種読書会を開催している。研究成果は『存在論の再検討』（共著、月曜社）、『光の形而上学』（共著、慶應大学出版会）、「バウムガルテン『形而上学』訳註」（成城大学）等。現在の研究テーマは「光の美学」と「虚構論と複数世界論」。

司会 持地秀紀 HIDEKI MOCHIJI

上智大学大学院哲学研究科博士後期課程在籍。専門はフランス哲学（ベルクソン研究）。神奈川大学 KUPS 「芸術の哲学（映画）」講座担当

定員

200名

参加費

1800円（税込）

開催方法

オンライン（Zoom）

申し込み方法

- 右のQRコード読み取り or URLへアクセス
 - 予約申込フォームを入力して送信
- <http://minato-h.com/events/directorxphilosopher/>



みなとHDのイベント
情報はこちらから！

